

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400900		
法人名	有限会社 アップウェル		
事業所名	グループホームたくひの里 1ユニット		
所在地	島根県出雲市大津町3645		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たくひの里は18年目を迎えた、2ユニット18名が利用されているグループホームです。医療機関との連携や地域連携、行政などの諸機関との連携がしっかり摂れており、要介護1から5までの様々な介護を必要とする方が生活されています。住み慣れた場所で最後までというご利用者の終の棲家として、看取りまでの支援をさせて頂いています。職員の定着率が高く、開所当時から勤務し続けている職員が多数おり、自己評価でも活き活きと働いているとした職員にとっても安定した事業所です。コロナ禍においては地域の方々や、保育園児との交流、イベント参加といった活動ができにくい状態ですが、利用者の生活の質をどのように向上していくかを、職員皆が考えて介護しています。認知症の周辺症状の緩和実績も多く、認知症介護を必要とされる皆様にとって安心できる事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で地域の人と日常的な交流はできないが、保育園児に手作り風車60個を利用者と一緒に作りプレゼントしたり地域ボランティアの人には事業所の実情を伝えつながり継続している。令和3年度の外部評価は運営推進会議を活用して実施し、市の担当者ツールとの相談をしたり各委員に実践を見てもらい運営に反映できた。職員は利用者のしたいことや得意なこと、生活習慣が継続するように活動を検討し支援している。年数回、事業所内で独自の商品券を発行してバザーを開催し、日用品や洋服、頂き物などの買い物を楽しんでいる。庭で桜見、ミカンの収穫、弁当を食べるなど五感を大切にしたり取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者の考える理想像を踏まえた独自の理念を持ち、管理者、職員ともに理解している。理念はよく見えるところに張り出してある。	事務所やフロアなど目につきやすい場所に掲示している。定期的な会議で理念をもとに利用者にとって良い介護ができるように話し合い実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で日常的ではないが、地域の方にはいつでも交流再開できるようにして頂いている。地域の保育園とは、手作りおもちゃを作って送ったり、花の種を頂いたり、できる交流をしている。	コロナ禍で地域の人との交流やイベント参加活動ができにくい状況ではあるが、保育園児との交流など工夫し地域とつながりながら暮らし続けられるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動が休止されており、なかなか活かせていない。今後どのようなありかたで発信できるか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに実施しており、ホームでの利用者の様子や日常を報告させていただいている。今年度は書面開催も多かったが、頂いたご意見を活かしている。	利用者の暮らしぶりや事業所の取り組み、実情を書面で報告しメール、FAX、文書などで感想が聞けるようにしている。「添付の便りでホールの様子が見えるために中身のある会議となっている。」と感想をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護や各種申請の相談や、事業所の運営で質問したりして、密に連絡を取っている。担当者は事業所の実情もよく把握してもらえる。	日頃から実情に合わせ相談や報告をして関係を築くように取り組んでいる。コロナ感染者が発生した時は、保健所の職員や県の担当者からアドバイスを受け感染防止に取り組めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束推進員の研修修了者ユニットごとにおり、年2回の研修と年4回の委員会を行っている。マニュアルに沿って会議で話し合い、職員の意識向上を図っている。	定期的な研修の中で動画を使用し具体的な内容の理解を深めている。朝の申し送り時、利用者への対応が拘束になっていないか、共通認識を持つように話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、WEB研修などで、ホーム内で職員全員で学ぶ機会を持ち、正しい意義を理解して高齢者虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方や、過去に利用されていた方の介護経験により、必要性を理解している。権利擁護についての研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前から管理者やリーダーは、利用者や家族と面談を重ねて詳しく状態をお聞きしている。契約時は不安や疑問点を聞き、いつでもまた聞いていただけるように呼び掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常的に声を掛けてご要望をお聞きしている。ご家族には毎月のお便りや意見を聞かせてもらうように呼び掛けたり、メールのやり取りや来所時にもお聞きしている。	面会時や電話、個別の通信で日頃の表情や様子を伝え、心配事や意見などいつでも連絡してもらおうように伝えている。面会方法も工夫している。運営推進会議の報告書は全家族に配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員一人ひとりに意見を聞く機会を設けている。日々の申し送りや会議でも意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	代表や管理者は日頃から職員の意見や要望を受け止め働きやすい環境づくりに努めている。シフト変更や休み希望など柔軟に対応できる体制を作り夜勤明けの後は必ずもう一日休めるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力ややりがい、実績、勤務状況の把握ができています。体調に合わせてすぐに休めるように声を掛けており、サポートに入る職員の確保ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や力量に合わせて資格試験の挑戦を進めており、合格の報告も受けている。受けられる研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はネットワークを通じて他の施設管理者との意見交換をしたり、電話連絡を取って、互いのサービス利用者のよりよい生活環境について連携をとり、協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時にこれまでの暮らし方、趣味、得意な事などを把握するとともに、希望に沿っている。会話以外に表情からも思いを汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご家族の要望や困っていること、不安な事をお聞きし、把握するとともにサービス利用に安心していただける環境づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に、状況をお聞きして他のサービス利用も含めた様々な対応の相談をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に寄り添ってともに生活をし、同じ空間を共有するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のご様子を伝え、ご家族との関係を理解したうえで、共に支えられるよう話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみのものや、人物との関係を継続して電話やはがきのやり取りといったコロナ禍でもできる関係維持支援に努めている。	コロナ禍でも電話やはがきでのやり取りで関係が途切れないよう工夫し支援に努めている。県外の家族と2年ぶりの面会が叶った人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策を取りながら、利用者同士の良いかかわりが持てるよう仲立ちとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても訪ねて来て下さる方がある。連絡はいつでもとれるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのこれまでの暮らし方や環境を理解して、思いを汲み取り、笑顔で過ごされるように努めている。	本人に寄り添って会話や表情から思いを汲み取っている。これまでの暮らしと違和感のないように環境を整えたり、趣味、習慣が継続できるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの情報提供をしっかりと受けて把握している。なじみのものを持ってきていただいたり、なるべくこれまでの暮らしと違和感のないように環境も整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活が送られるように、その日その日の心身状態の観察に努め、過ごし方を検討し、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に対しての本人家族の意見などをしっかりと聴きしている。チームの職員でプランのモニタリングも行っており、それについての話し合いをしている。	利用者、家族、関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。これまでの生活習慣や得意な事、楽しみ事など計画に挙げ、本人がより良く暮らすために全職員でモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録用紙とタブレットを利用して、気づきなどを記入し職員皆で情報共有もできるようになっている。それについての会議をして、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況を把握して、入所前に入所体験をして頂いたりもしている。コロナ禍においてもニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りは縮小されているができる限りで来て頂いたり、参加している。感染対策を取りながら、状況を見て協働していく支援を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向に従って、納得のいく形でのかかりつけ医との医療連携を行っている。適切な医療を受けられる体制をとっている。	希望のかかりつけ医と関係を築いている。コロナ禍でも家族と受診に行く人や、感染予防に努め柔軟な体制をとり適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力体制のある医療機関の看護職との連携を密に行っている。近年はワクチン接種でも速やかに協力して摂取していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況を随時伝えて、急変時に対応ができる体制ができている。協力医院とは、開所時からの連携が取れており、入退院時の情報交換もしっかりできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の身体状況が段階を追って重度化していくごとに、本人や家族の思いを聞いたり、医療機関と話し合いを繰り返して、終末期に向けたチームでの支援体制ができている。	重度化や終末期には繰り返し意向を確認し家族、主治医、関係者で話し合い支援している。コロナ感染者がいた時も、家族、全関係者が万全の対策を取りチームで支援に取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍においても急変や事故発生時に備えられるようなじみの看護師に講習をお願いしている。急変時の連絡先もきちんとまとめてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を行い、利用者、職員の避難の手順を確認している。近年は夜間の想定を重視して行っている。	近年は夜間の職員の少ない時間帯を想定した訓練をしている。非常ベルが聞こえない利用者も多くその対応方法や、連絡、協力先など細かいところまで全職員が周知できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人も、周囲の人にも配慮して人格を尊重した声掛けを行っている。職員の声が必要以上に大きくなったり、認知症のご利用者を不安や驚かせることがないように配慮している。	一人ひとりのペースを大切に、言葉や表情から思いを知りその日の状況や希望に沿って支援している。入浴や排泄も職員が関わることに抵抗がある人は気持ちを尊重し信頼関係を築くことを優先にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表現したり、自己決定できるような言葉かけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしてその人に何が必要なのか、どんなことがしたいのかその日の状況や希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで着られている。散髪の実望に答える等、その都度おしゃれも楽しめるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みはよく理解しており、希望の食品を買ってきたりしている。力量や、状況に合わせて感染対策を取って材料切りやお菓子作りなどを行っている。	一人ひとりの発揮できる力に合わせて皮むきやテーブル拭き、おやつ作りなど一緒にしている。毎日の献立は写真付きで掲示し会話の中で知らせたり、一品づつ皿に盛り付け見た目も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、栄養バランスが考慮しやすいよう記録して、それぞれに適したものを形態などを変えて提供している。十分摂取できるよう常に検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや本人の力量に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して記録している。排泄の自立維持されている方が、半数いらっしゃる。	一人ひとりの排泄の間隔を把握し、声掛けやその人に合った対応を行い自立に向けた支援をしている。現況を維持している人やパットの使用をやめることができた人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天を使用した補助食を常に作っていたり、体操を毎日取り入れたり、ここに合わせて服薬を調整したりして、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や入浴の希望を聞いて対応している。足浴がしたいと言われる方や、入浴が嫌いな方も清拭で身体を清潔にするなどの配慮をしている。	入浴が好きな人は回数を増やしたり、好まない人には無理強いをせずタイミングを見て清拭するなど一人ひとりに合わせた支援をしている。少し前には寝る前に入浴する人もいた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や、生活習慣を理解して休息していただいたり夜間に眠れるよう活動量に配慮している。室温湿度調整など環境にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの身体状態に合わせて服薬とその副作用について理解をしている。お薬説明書もすぐに確認できる場所におき、変更にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの役割や嗜好を理解して持てる力を発揮して楽しめるよう準備、支援している。新しい事も模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の頻度は減ってしまったが、できる範囲で花見や紅葉見学などを行っている。	出かけたという声が多く聞かれ、事業所周辺の散歩やドライブで車窓から時季の花や紅葉を見て季節を感じられるように支援している。天気と体調に合わせ庭でミカンや野菜の収穫、弁当を食べたりお茶会をするなど外気に触れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける機会はなくなってしまったが、訪問販売で支払いをしてもらったり、力量や希望に合わせて使えるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をつないだり、ハガキのやり取りの支援をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節に応じた飾りをして季節を感じながら過ごしていただくようにしている。音、光、臭い、温度など、その都度不快にならないように気が付いた時に調節させていただいている。	四季を感じる壁画や飾りつけをしている。一人でもトイレやエレベーターがわかるように案内表示をしている。庭で積んできた花を生ける人や新聞を読む人などあり生活感や季節感を採り入れ落ち着いた環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの安心できる居場所を確保して作業をして頂いたり、気の合う人同士で楽しめる空間を、感染対策を取りつつ作れるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家具や使い慣れたものを使用することで安心していただいている。昔からのなじみの家具や、鏡台、仏壇を持ってこられる方もある。	箆笥や鏡台、本、仏壇を置いている。自宅の部屋と違和感がないようにベッドや家具の配置を考えたり身体状況や動線にあわせて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の自走や、居室から食堂までのエレベーターの使用なども自分でできる方はして頂いており、安全面に配慮しながら日常生活のすることはすべて自立支援させて頂いている。		